



分析編でも述べましたが、中学校においては「書くこと」に大きな課題が見られました。

定着確認シートの「書く」問題をもとに、今後の対策を考えていきたいと思います。

問題番号 6 作文（記述）

出題のねらい

指定された文字数で書くことができる。

2段落構成で文を書くことができる。

自分の立場を明確に書くことができる。

自分のとった立場の理由を書くことができる。

2年B（1）イ ウ

平成二十六年 第三回定着確認シート 解答、指導のポイント参照



平成二十六年 第三回定着確認シート 【第二学年 国語】

6 新年を祝う手紙として、郵便による「年賀状」が広く利用されていますが、通信手段等の発達により電子メールを利用した「新年のあいさつ」も多く行われるようになりました。

あなたは、今後、次のAかBのどちらを利用したいと思いますか。あなたの考えを、次の条件にしたがって書きなさい。

- A 年賀ハガキなどの郵便による年賀状
- B 電子メールを使った新年のあいさつ

条件1 選んだ「新年を祝うあいさつ」の送り方（AかB）を○で囲むこと。

条件2 「手紙について」の文章の中から、自分の考えの根拠となる部分を引用すること。

条件3 条件2の根拠となる部分をもとに、あなたの考えの理由を書くこと。

条件4 百四十文字以内で書くこと。



生徒が、この問題を解くために必要な力

- 日常生活の中から材料を集めながら、自分の考えをまとめる力。
(課題設定や取材)
- 自分の立場を明確にして、文章の構成を工夫する力。 (構成)
- 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く力。 (記述)
- 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする力。 (推敲)



「書くこと」においては、課題設定や取材、構成、記述、推敲という、学習指導要領の4つの指導事項がきちんと身に付いていなければ、問題の条件を満たして書くことができません。

そのため

「書くこと」の生徒の実態

- 苦手意識をもつ生徒が多く、個人差が大きい。
- 無解答の割合が高い。

このような傾向の学校が多い。

対策として

「書く」力を高める方策の一つとして

→ **定着確認シート**を効果的に活用する。

定着確認シートの大問二は、毎回「書く」問題となっている。

- ・ 毎回行う。 ・ 作文の採点は、教師が行う。
- ・ 定着率の低い問題は、ポイントを指導し、繰り返し行う。



「書く」問題は、福島県学力調査だけでなく、全国学力・学習状況調査、高校入試にも出題されます。生徒の「書く」力を高めるためにも、**定着確認シート**を活用してください。今回は、授業改善の観点から、考えていきたいと思っております。